

日本政治学会 会報

The JPSSA News

No. 31

M A Y . 1996

実証研究と「再現性」

三宅 一郎

最近、政治学における実証研究の進展と蓄積は、目覚ましいものがある。伝統的実証研究である政治史・外交史は当然ながら、政策過程などの質的ケース・スタディから、世論調査データあるいは量的データに基づく数量的研究まで広範囲にわたって業績を輩出しており、新しい分野の研究は量的には伝統的な政治史研究を凌駕するものがある。ところが、新しい分野の研究では、実証研究には不可欠である「再現性」の意識がやや薄いのではないかと懸念される。

「再現性」(replicability)とは、研究報告を記述するに当たって、それに従うと誰でもその研究が依拠したデータが複製できるように、かつ、データから結論への推論過程を追跡することができるように心がけるべきだということに他ならない。もちろん、優れた研究は、筆者の個性、経験、洞察力によるところが多いから、実際には、完全な再現はありえない。また、再現作業はオリジナルな研究と見なされないから、教育の場を除いて、再現作業が行われることはまずない。しかし、あたかも再現作業を行いたいと希望する人が存在するとして、再現作業が容易に実施できるよう、論文を記述することが要請される(King, et al., "Designing Social Inquiry", Princeton U. P., 1994, pp. 26-27)。

政治史の分野では「再現性」の規範は、少なくとも建前上、研究手続きの一部となっている。それは、普通、詳細な注記、適切な文献紹介という形で行われるが、それに止まらない。新しい史料を用いるときは、その全文を本文中に引用することも少なくない。引用した史料の所在について他

の研究者より照会があれば、それに答えるのは義務である。未公開の史料を使った後、その史料への他の研究者のアクセスを阻害したとすると信用を失うことになろう。

歴史家の研究対象が、現代史に及ぶようになって、研究機関や研究者グループによる、オラル・ヒストリーの収集と蓄積が盛んである。個人研究者の手による政策決定者へのインタビュー・データが、史料の重要部分を占める研究も現れた。やがて、人類学や社会学におけるように、インタビュー・データの再現性の問題が生じよう。

インタビュー・データの生産に力を注ぐのは、むしろケース・スタディであるはずだが、現段階のケース・スタディは、新聞紙面以外のもっぱら二次資料に依存しているから、その再現性を高める方策は、政治史分野に学ばばよい。政治史研究との違いを強いてあげるとすれば、研究デザイン、理論、データのためのケース・スタディにおけるより密接な関連にあるようだが、この間の推理過程の記述には、もっと工夫が必要だろう。

世論調査データに基づく実証研究は、再現性の比較的实现しやすい分野のように見える。事実、データの集め方が標準化され、分析手法も統計パッケージを使うことが多いので、再現は容易に見える。しかし大規模な確率サンプル調査は、実際には財政的にも再現困難だから、研究者によるデータの提供が期待される。世界各国に存在する社会調査データのアーカイブは、日本ではまだ設立されてはいないが、日本でもその必要性については、ほぼ意見の一致を見ているといってよい。だが、かえってこの分野で「再現性」の意識はまだ

一般的とはいえない。

「再現性」は実証性を担保するが、その副産物として、(1)二重の研究投資を避けることができる。累積された個別研究を理論的、歴史的にまとめ上げることが容易になる。(2)大学院生の訓練材料を提供する。(3)不誠実なデータの使用、ずさんな引用やつまらない計算ミスが減らすことができるという効用があげられる。データ・アーカイブの必要な理由として、よく挙げられるのはこの副次的効用である。大型調査データは公共財であって、死蔵するのは良くないという主張もこの一つである。これに対しては、データの公開は、他人のハ

ードワークの成果にのみ依存する怠け者を養成することになるという反対論が出る。こういった議論の結果、データ公開は公開者の一方的恩恵と考える人が現れる。しかし、データの公開はなによりも再現性を最高度に高める一つの手段であり、実証研究者の義務と考えるべきだろう。

再現性の問題は、このような小文で論ずるには複雑すぎる。しかも、論者が長年ずさんな注記を続けてきた私では説得力に欠けるかもしれないが、ここから実証政治学の課題を引き出していただければ幸いである。

1996年度 日本政治学会研究会プログラム（4月29日現在）

10月5日(土)

共通論題A 日本政治と政治学

- 司会 内田 満（早稲田大学）
報告 松下 圭一（法政大学）：政治改革の課題と政治学の方法
大嶽 秀夫（京都大学）：日本政治と多元主義の登場
川崎 修（北海道大学）：戦後政治学はどう『記憶』されるか？
討論 小林 良彰（慶応義塾大学）

分科会A 近代日本の植民地統治

- 司会 山田 辰雄（慶応義塾大学）
報告 姜 再鎬（東京大学）：植民地朝鮮の地方制度
浜口 裕子（文化女子大学）：日本統治下の朝鮮と満州の比較
討論 北岡 伸一（立教大学）
木畑 洋一（東京大学）

分科会B 合理的政治理論の現状と課題

- 司会 山川 雄巳（関西大学）
報告 盛山 和夫（東京大学）：権力に関する合理的選択論
飯島 昇蔵（早稲田大学）：社会契約に関する合理的選択論
宇佐美 誠（中京大学）：集合的決定に関する合理的選択論
森脇 俊雅（関西学院大学）：政治的需要に関する合理的選択論

分科会C 現代政治と宗教

- 司会 有賀 弘（日本大学）
報告 上坂 昇（桜美林大学）：アメリカ政治と宗教
廣岡 正久（京都産業大学）：ロシア政治と宗教
鈴木 董（東京大学）：トルコ政治と宗教
討論 古矢 旬（北海道大学）
村上 信一郎（中部大学）

分科会D 選挙と投票行動

- 司会 三宅 一郎（関西大学）
報告 S.R.リード（中央大学）：93年総選挙における政治改革争点
平野 浩（愛知県立大学）：連立政権下の選挙における政党評価と政権選好の役割
山田 真裕（関西学院大学）：投票行動における新党効果
討論 相内 俊一（北海道教育大学）
川人 貞史（東北大学）

分科会E 転換期における利益集団と政治過程

- 司会 辻中 豊（筑波大学）
報告 秋月 謙吾（京都大学）：利益団体調査からみた官僚制の変容
石生 義人（筑波大学）：ロビイングの日米比較とネットワーク分析
伊藤 光利（立命館大学）：大企業労使連合 VS 地方政府・受益団体連合

学 会 ニ ュ ー ス

討論 井戸 正伸 (茨城大学)
中野 実 (明治学院大学)

10月6日(日)

共通論題B 現実主義と理想主義

司会 中西 輝政 (京都大学)
報告 大畠 英樹 (早稲田大学) : 冷戦後の『現実主義論争』
土山 實男 (青山学院大学) : 国際政治におけるアナキーの意味ーリアリストとその批判者たち
高柳 先男 (中央大学) : 『現実主義と理想主義』を超えて
討論 酒井 哲哉 (東京大学)

国際交流プログラム (未定)

分科会F ホブズと20世紀の政治哲学

司会 添谷 育志 (東北大学)
報告 中金 聡 (中部大学女子短期大学) : 『リヴァイアサン』の再生ーホブズとオークショット
松田 宏一郎 (立教大学) : 戦後日本政治学におけるホブズ
前田 康博 (千葉大学) : ホブズから何を学ぶか
討論 福田 欽一 (日本学士院)

分科会G 政策過程分析の諸アプローチ

司会 大河原 伸夫 (九州大学)
報告 飯尾 潤 (埼玉大学) : 政官関係の変容と

ポリシー・サイクル
堀江 湛 (慶応義塾大学) : 議会デモクラシーと地方分権
渡辺 守雄 (九州国際大学) : 政策過程と『文化』のポリティクス
討論 永森 誠一 (国学院大学)
新川 達郎 (東北大学)

分科会H 市場経済化と民主主義の定着

司会 恒川 恵市 (東京大学)
報告 伊東 孝之 (早稲田大学) : 民主化『理論』と旧社会主義国における政治変動
出岡 直也 (東北大学) : ラテンアメリカにおける民主主義とネオリベリズム
木宮 正史 (東京大学) : 韓国における経済的自由化・民主化と政治的民主化
討論 小川 有美 (千葉大学)

分科会I 地方自治の再検討

司会 大森 彌 (東京大学)
報告 寄本 勝美 (早稲田大学) : 公共政策と市民参加
中邨 章 (明治大学) : 都市の国際化と地方自治
武藤 博巳 (法政大学) : 行政改革への戦略
討論 山口 二郎 (北海道大学)
石上 泰州 (北陸大学)

1995年度第4回理事会記録

日時 1995年12月2日(土) 午後1時から2時30分まで
場所 京大会館

1995年度第4回理事会では、理事長挨拶の後、以下の事項が報告・承認された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

1995年度

加茂95年度企画委員長から、本年度の学会・研究会が無事終了したことの報告がなされた。

1996年度

蒲島96年度企画委員長から、研究会企画を12月末日を締め切りに公募中であることが報告された。また、ペーパーについては各報告者に100部ずつ提出するように依頼してあることが報告された。

(2) 年報委員会

1995年度

西尾95年度年報委員長の手紙を常務理事が代読し、95年度年報に関する委員会の任務がすべて完了したこと、刊行予定日は、本年12月21日、定価3800円、部数2200部である旨が報告された。

1996年度

佐々木96年度年報委員長の手紙を常務理事が代読し、12月19日に委員会を開催し、公募論文審査等の今後の手続きを決定する予定である旨が報告された。

1997年度

五百旗頭97年度年報委員長の手紙を常務理事が代読し、①97年度年報委員会を組織したこと、本年12月19日に第1回の委員会を開催予定であること、②特集のテーマは、(Ⅰ)危機の日本外交—1970代国際変動への対応、(Ⅱ)制度の政治学、であること、③特集テーマ(Ⅰ)については、年報委員会メンバーを含む13名による共同研究を企画し、科学研究費の申請を行ったこと、④次号ニューズレターに論文公募の案内を行ったこと、以上の点が報告された。

(3) 文献委員会

1995年度

天川95年度文献委員長から、95年度文献委員会の任務が完了したことが報告された。

1996年度

渡辺96年度文献委員長から、文献委員会メンバーについて、前回理事会で承認された、飯田文雄(神戸大学)、出岡直也(東北大学)、伊東孝之(早稲田大学)、荻部直(東京大学)、酒井哲哉(東京大学)、城山英明(東京大学)、高橋直樹(東京大学)、田中俊郎(慶応義塾大学)、村嶋英治(成蹊大学)、森政稔(東京大学)の各会員の他に新たに野中尚人(学習院大学)、大津留智恵子(大阪教育大学)、竹田いさみ(獨協大学)の各会員(但し、大津留氏については、本理事会で入会が承認されることを前提とする)を加えたいとの提案がなされ、了承された。また、学会員が業績を申請する際には抜刷り等を併せて送付することを重ねてお願いする予定であることが報告された。

(4) 国際交流委員会

北岡国際交流委員長の「本年度学会(法政大学開催)における国際交流のセッションが成功裡に開催されたこと、その他、現在、特にご報告することはない」との村松理事長への連絡が紹介された。

(5) 選挙管理委員会

森脇委員長から、理事選挙に関するすべての手続きが終了したことが報告された。

(6) 非欧米圏の政治学会との交流に関する委員会

渡辺委員長から、前回理事会での中間報告について、補足説明がなされ、それを踏まえて種々審議の結果、①非欧米圏の交流のあり方についていっそう具体的な方法を同委員会に検討してもらうこと、②日本政治学会国際交流基金の積極的運用を考え、その際には、運営規定等の改正を行うこともあり得るとされた。

(7) 1995年度研究会主催校からの報告

鈴木理事から本年度の研究会に関する参加者、懇親会、ペーパー準備、会場手配等について報告がなされた。これに関連して蒲島理事から主催校から開催援助金が出ない場合のことを今後考える必要があるとの問題提起がなされ、引き続き検討することとした。

2. その他

(1) 新入会員承認の件 以下の11名の入会が承認された。

イザンベール直美、大津留智恵子、金子太郎、白鳥 浩、末内啓子、田所昌幸、中前吾郎、中山洋平、西脇文昭、三浦頭一郎、村田晃嗣

(2) 次回理事会の日程の件 次回理事会を1996年3月30日(土)京大会館(京都)にて開催することが決定された。

(3) 事務局報告 常務理事から、日本政治学会会員名簿と会報No.30を12月6日(水)に発送する予定であることが報告された。

1995年度第5回理事会記録

日時 1996年3月30日(土)午後1時から3時30分まで
場所 京大会館

1995年度第5回理事会では、理事長挨拶の後、以下の事項が報告・承認された。

1. 1995年度決算の件 常務理事より決算報告、飯島監事より監査報告がなされ、別紙の通り承

認された。

2. 1996年度予算の件 常務理事より、予算案の提案があり、別紙の通り承認された。なお、研究会準備金については、原案の数字を変更しないが、それ以上の支出が必要な場合には、先例にならない必要に応じて「予備費」の中から適宜支出する旨の了解がなされた。

3. 各委員会報告

- (1) 企画委員会 蒲島96年度委員長から、本年度研究会企画の進行スケジュールについての説明と、研究会プログラムの詳細についての紹介があり、承認された。

- (2) 年報委員会 佐々木96年度委員長から、応募論文8本の内4本の採用が決定され、研究会で準備する8本と合わせて12本の論文を収録する予定で進行中である旨が報告された。五百旗頭97年度委員長から、現在論文の応募件数が2桁近くになっていること、計画研究の応募も2件あることが報告され、合わせて年報研究会の活動状況についても詳細な報告があった。

以上の報告に関連して、会員からの応募を容易にするシステムについて種々協議がなされた。

- (3) 文献委員会 渡辺96年度委員長からの文書を常務理事が代読し、委員会に寄せられた研究業績の自己申告が251人になったこと、2月18日の文献委員会会合で執筆方針・分野ごとの行数割当・各委員の分担確定等を行ったことが報告された。また、新たに比較政治の「西アジア・アフリカ」地域担当の委員として鈴木董会員（東京大学）をお願いした旨が報告され承認された。

- (4) 国際交流委員会 北岡委員長から、(一) ECPR との共同研究については、蒲島郁夫会員を中心とする研究班が昨年12月にダブリンにて共同研究会を持ったこと、(二) 1996年の APSA 大会に、蒲島郁夫会員・飯田文雄会員（神戸大学）を派遣すること、(三) 1996年度の研究会には APSA から2名、

ECPR から1名を招請することを考えているが、次回理事会で具体的な報告をするつもりであることが報告された。

- (5) 非欧米圏の政治学会との交流に関する委員会 渡辺委員長からの、今回特に報告することはないとの手紙の紹介があった後、理事長から、前理事会からの引き継ぎ事項①「新たに寄付された資金を含む予算の有効活用」、②「国際交流の一層の促進」への本理事会の対応として、予備費のうち、IPSA ラウンドテーブル組織委員会寄付金から国際交流基金に繰り入れた後の残額749,594円を含んだ一定額を、非欧米圏との交流プロジェクトとして数年計画で利用することが考えられるとの発言があった。また、これは前回理事会で取り上げられた規定改正による運用ではなく、理事会が年度ごとに、毎年の事業を決定する方法による運用である、との説明がなされた。

4. その他

- (1) 北住理事から、昨年11月に新たに結成された中部政治学会について説明があった。
- (2) 事務局が保管する会員情報の利用について 田口富久治理事から、事務局が保管する会員情報を学術目的のために利用したい旨の発言があり、種々協議の結果、こうした利用を行なう場合の形式や問題点等を検討するための委員会を、加茂・渡辺の常務理事経験者、的場現常務理事および次期常務理事が予定されている馬場康雄会員を委員として構成し、10月理事会をめぐりに検討することになった。

- (3) 新入会員承認の件 以下の16名の入会が承認された。

毛 桂榮、飯田芳弘、野村真紀、姜 再鎬、福田有広、建林正彦、大石 裕、松岡偉一、川上高司、白井陽一郎、沢目健介、宇佐美誠、金井隆典、近田達夫、中島康比古、豊永郁子

- (4) 次回理事会の日程の件 次回理事会を6月22日（土）午後1時から学生会分館で開催することが決定された。

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会1995年度決算

〔一般会計〕

費 目	予算額	執行額	残 高
収入			
1. 前年度繰越	9,433,237	9,433,237	0
2. 会費収入	9,004,250	8,862,680	△141,570
3. 雑収入	40,000	66,783	26,783
収入合計	18,477,487	18,362,700	△114,787
支出			
1. 研究会開催費	1,020,000	1,005,000	15,000
A. 研究会準備金	970,000	970,000	0
B. 報告者礼金	50,000	35,000	15,000
2. 委員会経費	815,000	815,000	0
A. 年報委員会	210,000	210,000	0
B. 企画委員会	210,000	210,000	0
C. 文献委員会	190,000	190,000	0
D. 国際交流委員会	170,000	170,000	0
E. 選挙管理委員会	35,000	35,000	0
3. 理事会経費	100,000	81,301	18,699
4. IPSA 学会分担金	200,000	151,943	48,057
5. 事務局経費	1,090,000	1,004,520	85,480
A. 理事長通信費	100,000	100,000	0
B. 運営費	60,000	60,000	0
C. 人件費	600,000	600,000	0
D. 経常費	330,000	244,520	85,480
6. 名簿作成積立金	450,000	450,000	0
7. 国際交流基金へ積立	200,000	200,000	0
8. 国際交流基金へ繰出	5,000,000	5,000,000	0
9. 選挙管理費	400,000	420,000	△20,000
10. 会報発行費	480,000	473,396	6,604
11. 年報会計へ繰出	4,800,000	4,800,000	0
12. 予備費	3,922,487	305,000	3,617,487
支出合計	18,477,487	14,706,160	3,771,327
差引残高	0	3,656,540	3,656,540

〔別会計〕

名簿作成積立金

収入	
1. 前年度繰越	804,413
2. 本年度積立	450,000
3. 利息	840
収入合計	1,255,253
支出	
1. 名簿作成費	1,199,180
2. 予備費	0
支出合計	1,199,180
差引残高	56,073

年報会計

収入	
1. 前年度繰越	2,906,151
2. 一般会計から	4,800,000
3. 利息	22,316
収入合計	7,728,467
支出	
1. 年報費用	4,007,810
2. 予備費	0
支出合計	4,007,810
差引残高	3,720,657

国際交流基金

収入	
1. 前年度繰越	15,800,368
2. 本年度積立金	200,000
3. 一般会計から繰入	5,000,000
4. 利息	112,205
収入合計	21,112,573
支出	
1. 執行計画	500,000
2. 予備費	0
支出合計	500,000
差引残高	20,612,573

一般会計資産

現金	25,495
郵便貯金	2,525,581
さくら銀行総合口座	1,105,464
計	3,656,540

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会1996年度予算

〔一般会計〕

費 目	予算額
収入	
1. 前年度繰越	3,656,540
2. 会費収入	9,108,125
3. 雑収入	60,000
収入合計	12,824,665
支出	
1. 研究会開催費	1,020,000
A. 研究会準備金	970,000
B. 報告者礼金	50,000
2. 委員会経費	780,000
A. 年報委員会	210,000
B. 企画委員会	210,000
C. 文献委員会	190,000
D. 国際交流委員会	170,000
E. 選挙管理委員会	0
3. 理事会経費	100,000
4. IPSA学会分担金	200,000
5. 事務局経費	1,090,000
A. 理事長通信費	100,000
B. 運営費	60,000
C. 人件費	600,000
D. 経常費	330,000
6. 名簿作成積立金	450,000
7. 国際交流基金へ積立	400,000
8. 選挙管理費	0
9. 会報発行費	550,000
10. 年報会計へ繰出	4,800,000
11. 予備費	3,434,665
支出合計	12,824,665
差引	0

〔別会計〕

名簿作成積立金

費 目	予算額
収入	
1. 前年度繰越	56,073
2. 本年度積立金	450,000
3. 利息	1,000
収入合計	507,073
支出	
1. 名簿作成費用	0
2. 予備費	507,073
支出合計	507,073

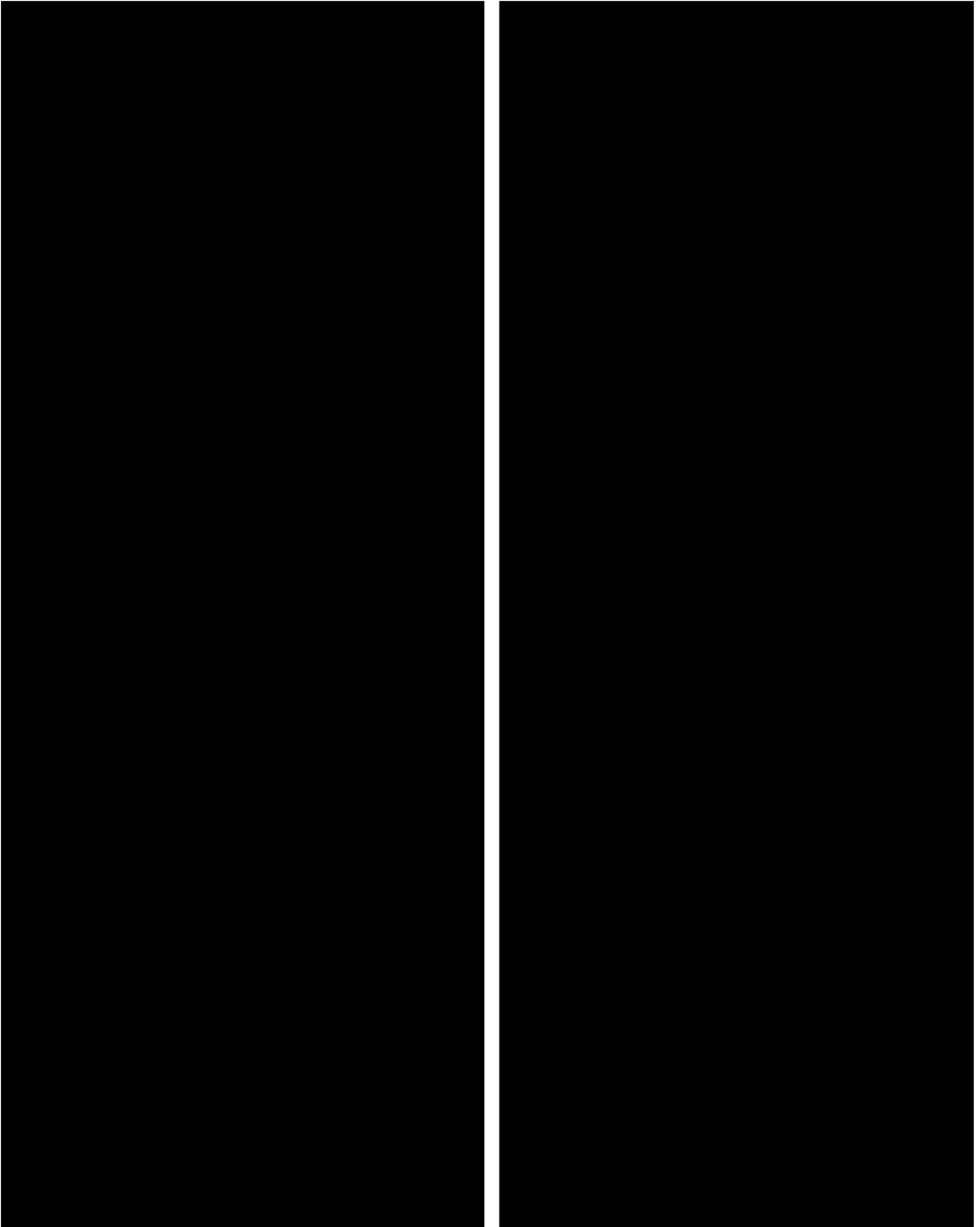
年報会計

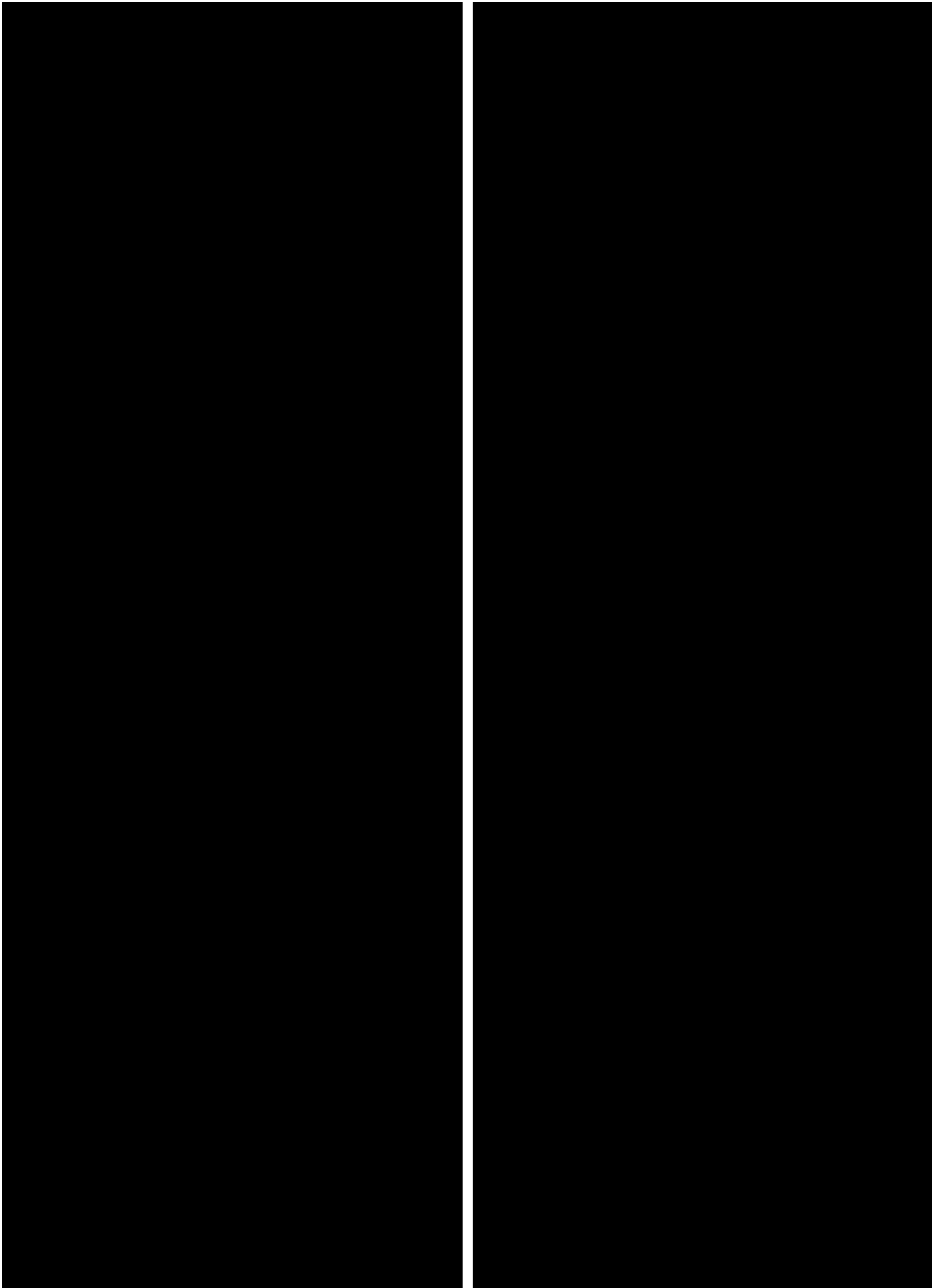
費 目	予算額
収入	
1. 前年度繰越	3,720,657
2. 一般会計から	4,800,000
3. 利息	20,000
収入合計	8,540,657
支出	
1. 年報費用	5,679,500
2. 予備費	2,861,157
支出合計	8,540,657

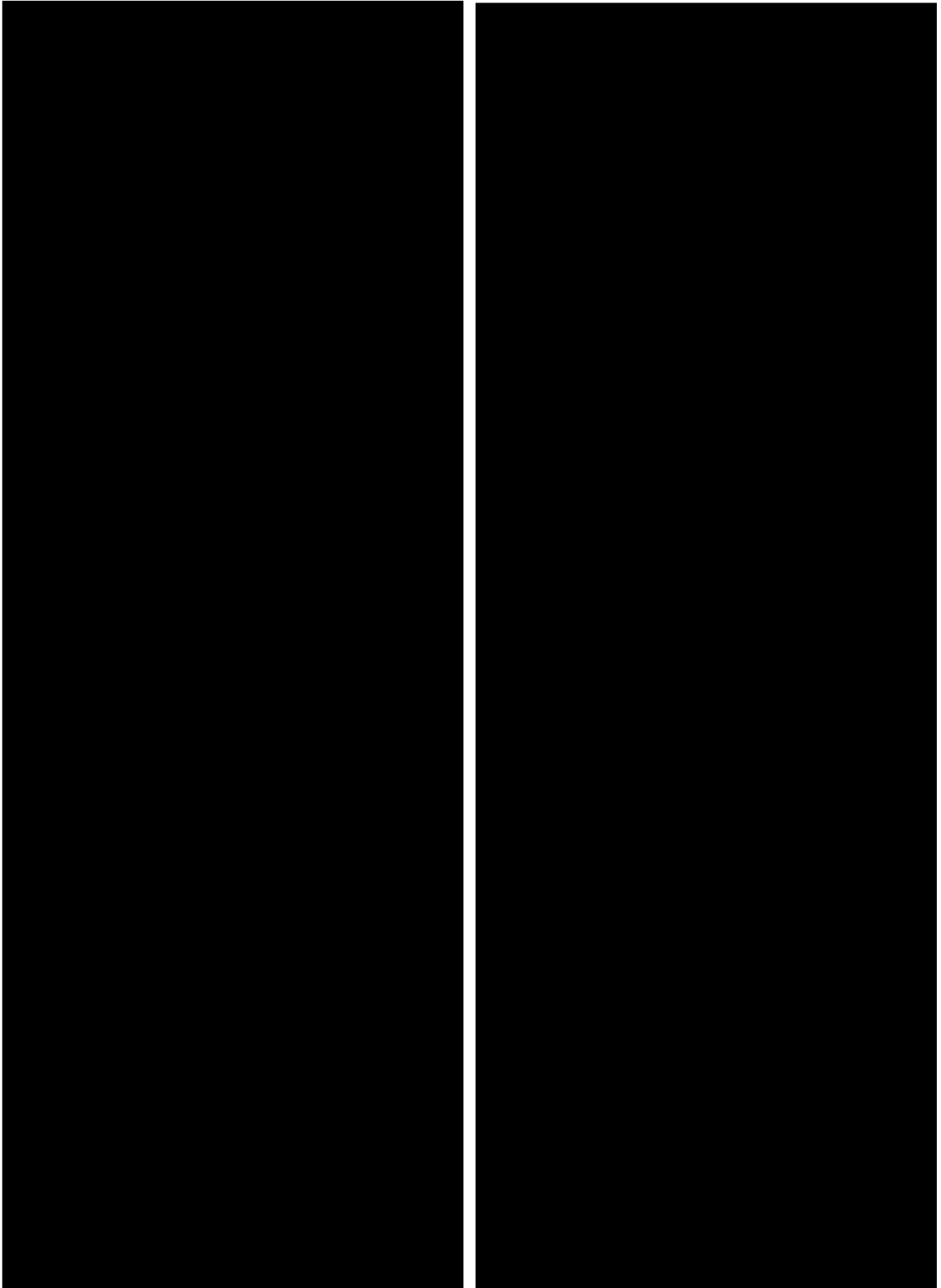
国際交流基金

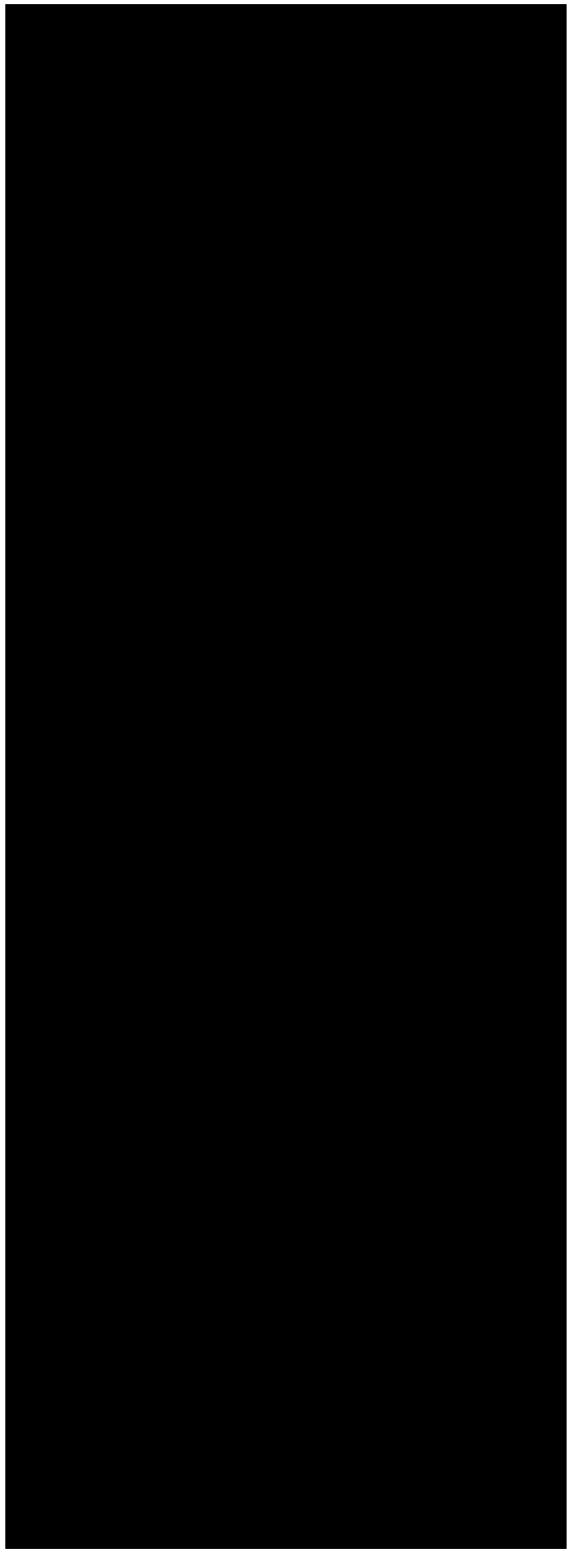
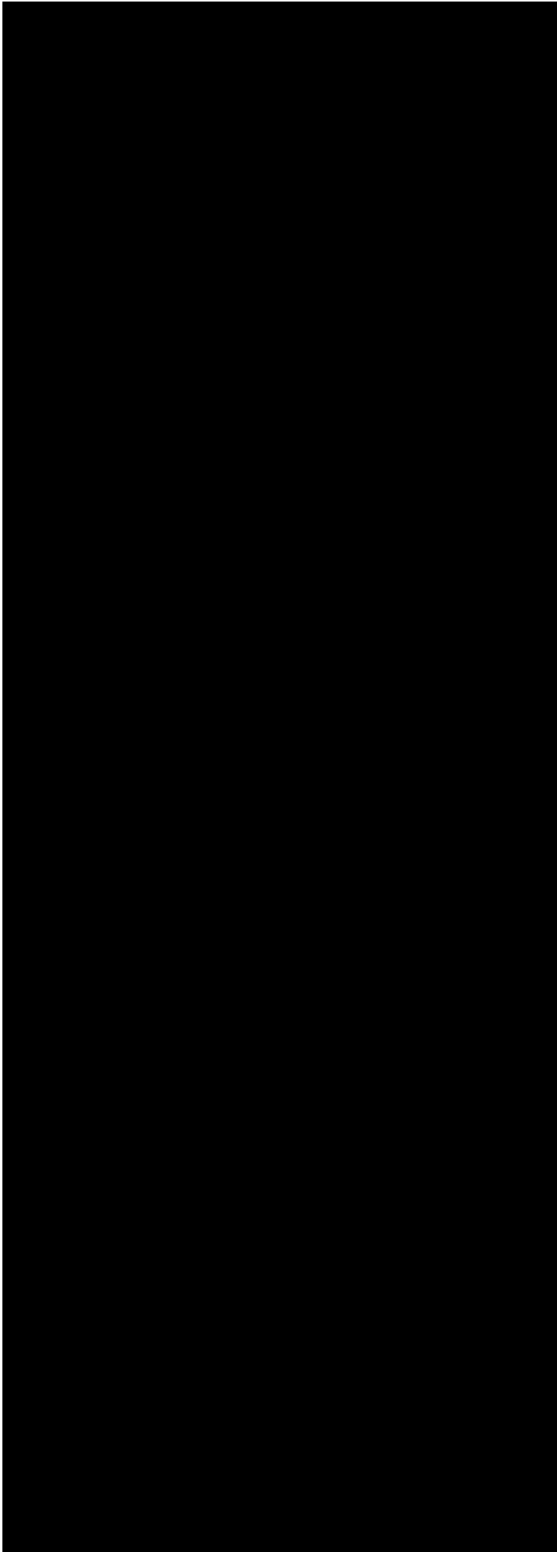
費 目	予算額
収入	
1. 前年度繰越	20,612,573
2. 本年度積立金	400,000
3. 利息	120,000
収入合計	21,132,573
支出	
1. 執行計画	320,000
2. 予備費	20,812,573
支出合計	21,132,573

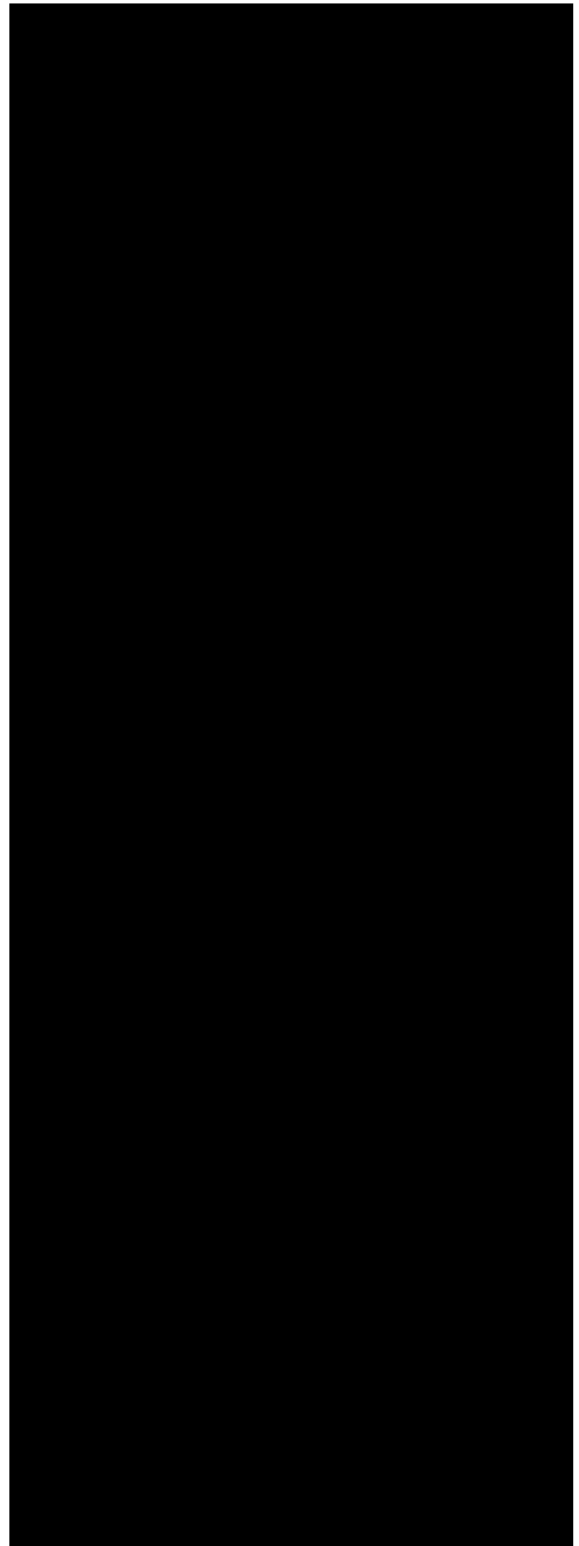
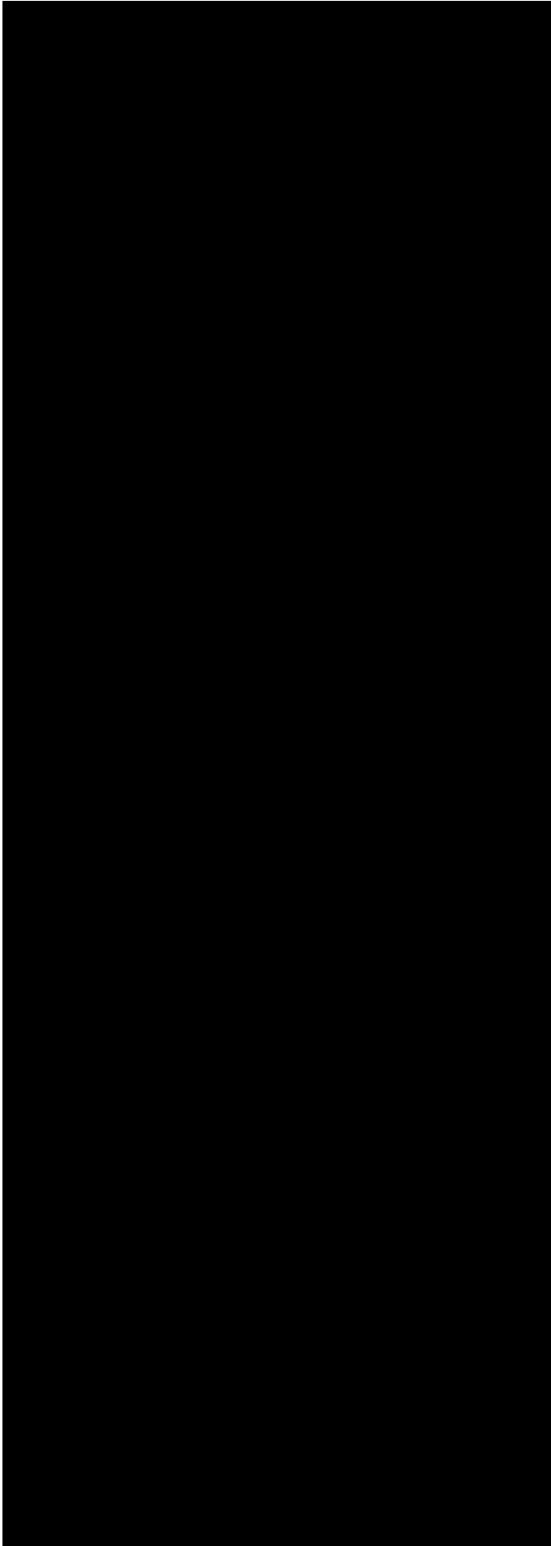
会員の異動 (1995.11.7~1996.4.26)

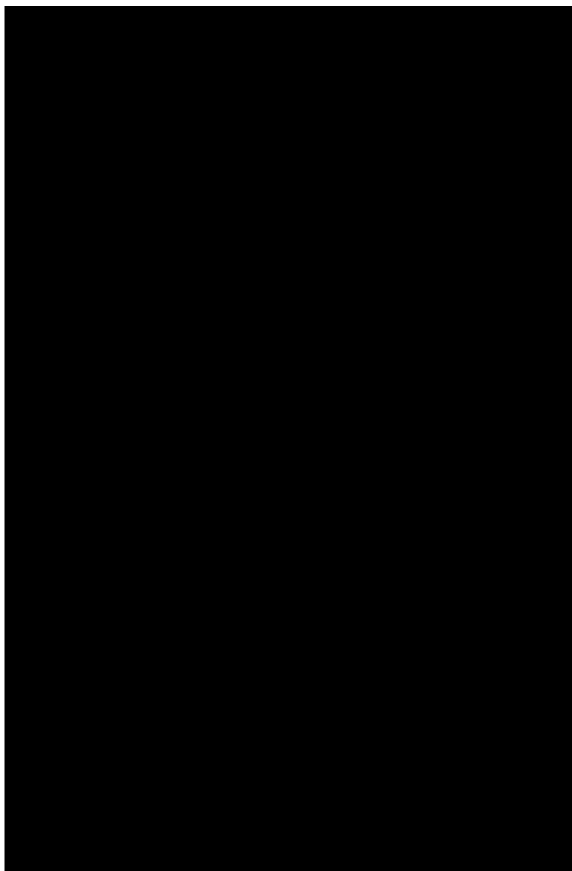












事 務 局 よ り

会費納入についてのお願い

新年度にあたり、会費を同封の振込用紙にて、お支払いいただきますようお願い申し上げます。

最近会費納入率が若干低下しており、事務局としては懸念いたしております。また、会費納入の時期が遅れますと、年報の送付の遅れにもなり、事務上の処理もそれだけ複雑になります。以上の点をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

1992年度より年報の会員配布制度への移行に伴い、会費は以下ようになっておりますので、当該の金額をお振り込みください。なお、年報の配布は会費納入済みの会員にのみ行います。なるべく早めにお払い込みくださるようお願い申し上げます。

1. 金 額 一般会員 7,500円
 大学院生 5,000円

2. 一般会員の場合
一般会員の方には、7,500円の金額記入済みの振込用紙を同封しておりますので、同金額をご納入下さい。

3. 大学院生の場合
現在大学院生として登録されている方には、5,000円と記入済みの振込用紙を同封しておりますので、変更のない場合は、そのままお振込下さい。

4. 一般会員へ変更の場合
登録は大学院生であるものの、すでに大学院生でなくなった方は、金額欄を7,500円とご訂正の上ご送金下さい。(この場合通信欄にて名簿記載事項の変更をお知らせ下さい。)

なお、大学院生とは後期博士課程の正規の学生のみで、研究生・学術振興会特別研究員などは、含まれませんので、これらに該当される方は、一般会員となります。

5. 前年度会費未納入の場合
95年度会費未納入の会員には、95年度分と96年度とを加えた金額(一般会員15,000円、大学院生10,000円)を記入してあります。

大学院生と登録されていて変更のあった方は、4. の場合と同様10,000円を12,500円にご訂正下さい。

訃 報

下記の会員が御逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

酒田正敏氏(明治学院大学教授)

1996年3月4日 1937年生 日本政治史・政治過程論専攻。

本号の目次

1. 三宅一郎 実証研究と「再現性」 …	1
2. 1996年度研究会プログラム ……	2
3. 理事会記録 ……	3
4. 1995年度決算 ……	6
5. 1996年度予算 ……	7
6. 会員の異動 ……	8
7. 事務局より ……	14

1996年5月28日

発行 日本政治学会事務局

的 場 敏 博

〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都大学法学部 的場研究室

T E L (075) 753-3262

F A X (075) 753-3290

郵便振替番号 00100-8-84250

加入者名 日本政治学会

印 刷 昭和堂印刷所